

## 心新たに 夢や目標をもつ

校長



新年あけましておめでとうございます。保護者、関係者の皆様方におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。3学期も子どもたちが、明るく元気に伸び伸びと学校生活を送り、4月には希望に胸を膨らませて進級、進学を迎えられるよう、教職員一同、力を合わせて教育活動に取り組んでまいります。

さて、新年を迎えるとよく聞くことわざに「1年の計は元旦にあり」ということわざがあります。1年間の目標や計画は元旦に決めるのが良いという意味だったり、何ごとも最初に計画や準備が必要であり、はじめの計画ができていないと物事はうまくいかないという意味で使われたりします。「月令広義(げつりょうこうぎ)」という中国の書物には、中国の伝統的な年中行事、儀式、しきたりなどが解説されています。そのなかに「1日の計はあした(朝)にあり、1年の計は春にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」という4つの計が書かれています。1日の計はあした(朝)にありと1年の計は春にありを合わせて、日本では「1年の計は元旦にあり」というようになったという説があるようです。そして、「1年の計は元旦にあり」の続きとして、「一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」となって、まじめに努力することで人生が決まり、身の振り方や生き方で一家の将来が決まるという教訓として引用されるのだそうです。勤勉であること、誠実に生きることは本当に大切なことです。

子どもたちには、2018年のスタートにあたり、今年1年間の目標(夢)を決めて、目標の実現に向け、しっかりと計画を立て、何ごとに対してもまじめに取り組む、自分の努力によって希望に満ちた明るい将来を手に入れてほしいと思います。「努力に勝る天才なし」という言葉もあります。毎日の小さな努力がやがて大きな成果をもたらしてくれることを信じて、今年1年、仲間と共に様々なことを学び続け、笑顔を忘れず、元気よく、夢のある楽しい学校生活を送ってほしいことを願っています。

今年もロンドン日本人学校の子どもたち一人ひとりの前途に幸多きことを祈っています。

### ☆英会話担当教員の異動についてのお知らせ

Tatyana Mackenzie 先生がご家庭の都合で退職され、後任に Thomas Caterer 先生が着任しました。

## レジリエンスの高い子に

日本では、初詣や合格祈願等で神社仏閣が設けている「おみくじ」を引く人がたくさんいますが、近年おみくじに凶が0~30%しか含まれず、このうちの0%というところが増加しているそうです。理由は、参拝者の方がおみくじを引き、凶や大凶がでると、落ち込んでしまうため、あえて入れないと聞いています。このことを知って皆さんはどう思われるのでしょうか。参拝者への配慮の一つだとは思いますが、近年、世の中が、苦しみや傷つくことに出会わないように配慮されすぎている傾向が強くなっているようにも感じます。

「人生は山あり谷あり」と言うように、生きていれば楽しいことや嬉しいことばかりではなく、苦しいことも辛いことも悲しいこともあるはずで、思い通りにならないことも挫折もたくさん経験するはずで、そんな人生を前向きに生きられるようになりたいものです。そのためには、ちょっとやさそとのことでは挫けない心や自分で気持ちをコントロールし、自分で回復していく力が必要です。「かわいい子には旅をさせよ」という古人の知恵にもうなずけます。

ここ数年、「レジリエンス」というタイトルの入った本をよく見かけるようになりました。困難や傷つきからの「回復力、復元力」、「しなやかな心」などを意味する言葉で、心理学をはじめ様々な分野で注目されています。レジリエンスの高い子を育てるには、たくさんの視点が必要だと思いますが、そのための視点を3つご紹介します。

### 1 感情を切り替える方策を選ぶ。

「まあいいか」「なんとかなるさ」などと、事実を楽観的に考える習慣をつける(しかし、楽観的すぎる子には慎重なふるまい方を身につけることを望みたいと思います)。

### 2 努力して少しずつ目標を達成し、成功体験を積んで自己肯定感を高める。

自身の十分な成功体験の蓄えがあれば、失敗しても次には何とかできるだろうという前向きな気持ちの拠り所ができる。ただし、その場合、目標のハードルは無理をせず適度な頑張りを超えられるくらいの高さがよい。

### 3 他者からの援助があるという安心感をもつ。

人から支えられる経験を増やし、支えがあれば困難な状況も何とか乗り越えられることを実感できれば、うまくいかなかったときにも絶望感に陥らずにすむ。

挫折から守ることより、挫折に負けない力をつけさせることが本人のためになるはずで、

子どもたちには、自分の前にある壁を乗り越えることでレジリエンスの高い子になってほしいと願っています。

## ホンダ自動車工場見学

小学部5年生は、11月6日（月）スウィンドンにあるホンダ自動車工場へ、校外学習に行ってきました。ホンダ自動車工場の概要の説明を聞いた後、溶接・塗装・組立の工場を見学したり、水素ミニ実験や自動車に関するクイズに参加したりしました。

工場見学では、ロボットが溶接や部品の取り付けを行っている様子を近くで見ることができました。効率の良い方法で自動車を生産



できるように、人とロボットが行う仕事を分担するなど、様々な工夫がされていることに気付くことができました。水素ミニ実験では、水素と酸素を使って模型の車を動かしました。子どもたちは、水素と酸素だけで自動車を動かすことができることや、排出するものが水だけということに大変感心していました。また、自動車に関するクイズも楽しんで参加しました。

自動車の生産工程を実際に見ることで、教室で学んだことをさらに深めることができ、大変充実した校外学習になりました。

## いろいろ学んだ校外学習

小学部4年生は11月23日（木）に校外学習でオックスフォードにある下水処理場と鉄道博物館に行きました。

下水処理場では、私たちの生活で使われた水がどのように処理されてきれいになっていくのかを学習しました。子どもたちは、ロンドンではバス11台分の重さの油やごみが下水管に詰まっていることを聞いて、驚きの声をあげていました。また、それを除去するために多くの費用と時間がかかるということを知って、自分の生活を振り返る機会になったようでした。



鉄道博物館では、イギリスの蒸気機関車の歴史について学習しました。本物の蒸気機関車に乗ったり、公開中の映画に出ている蒸気機関車を間近で見たりして、子どもたちは大興奮でした。産業革命の立役者でもある蒸気機関車について本物を前に学習できるのは、ロンドン日本人学校ならではの体験です。

そして、学校に帰ってから、一人ひとりが学んだ内容を、読み手に分かりやすいようにリーフレット形式にまとめることができました。

## 言葉も世代も飛び越えて

11月29日（水）、中学部3年生はお年寄りのデイケアセンターを訪問しました。会場に到着早々、生徒はステージに向かい、一生懸命練習してきた様々な出し物を披露しました。各クラスの合唱、組体操、ダンスやハンドベル演奏等、一つひとつの演目が終わるたびに、生徒には温かい拍手が贈られました。最後に全員で「威風堂々」を合奏した際には、楽しそうに歌ったり、リズムをとったりしてくださる方がたくさんいらっしゃいました。

その後の歓談の時間には、はじめ、英語がうまく通じるかといった不安から、なかなか一歩踏み出せないでいる生徒もいました。それでも、勇気を出してお年寄りのところへ「Hi!」と笑顔で向かっていったのちは、なごやかに談笑したり、折り紙の鶴と一緒に折ったりする姿が会場のあちらこちらで見られました。世代を超えて、言葉を超えて、お年寄りと心を交わしたこのひとときのことは、生徒の心の中で、心温まる英国での思い出として、いつまでも輝き続けることでしょう。



## はじめての現地校交流

小学部1年生は、12月8日（金）に West Acton Primary School へ現地校交流に行きました。

現地校の子どもたちによる歓迎の歌でスタートした現地校交流。英語だけで繰り広げられる歓迎会に、緊張した面持ちで、不安そうな様子の子もたち。その後、3グループに別れ、2つの活動をしました。1つ目は、北極圏をテーマにした学習発表を見せてもらいました。発表では、ペンギンやシャチなどについて調べた内容を、視覚資料を使いながら説明してくれました。英語がわからなくても理解することができました。2つ目は、オリジナルのペンギンを作りました。文房具の数が限られているため、物を借りることに苦労している子もいましたが、現地校の子が気付いて話しかけてくれたり、自分からジェスチャーや単語で話したりするなどしてコミュニケーションをとっていました。この頃には、英語だけの環境にも慣れ、笑顔で活動できるようになりました。



「楽しかった」と、とても充実した時間を過ごせた子どもたち。帰校後の振り返りには、「自分からもっと話しかけたかった。2月の交流では、もっと話せるように英語の勉強を頑張る。」という意見がたくさん聞かれ、英語学習へのモチベーションを上げることもできたようでした。